

# 耳の病気・鼻の病気



**宣 言**

明るい笑顔
すぐ返事
伝える元気

かちどき薬品 ホームページ  
**げんき君** 健康に関する情報がいっぱい  
<http://www.genki1616.co.jp>

かちどき薬品グループ

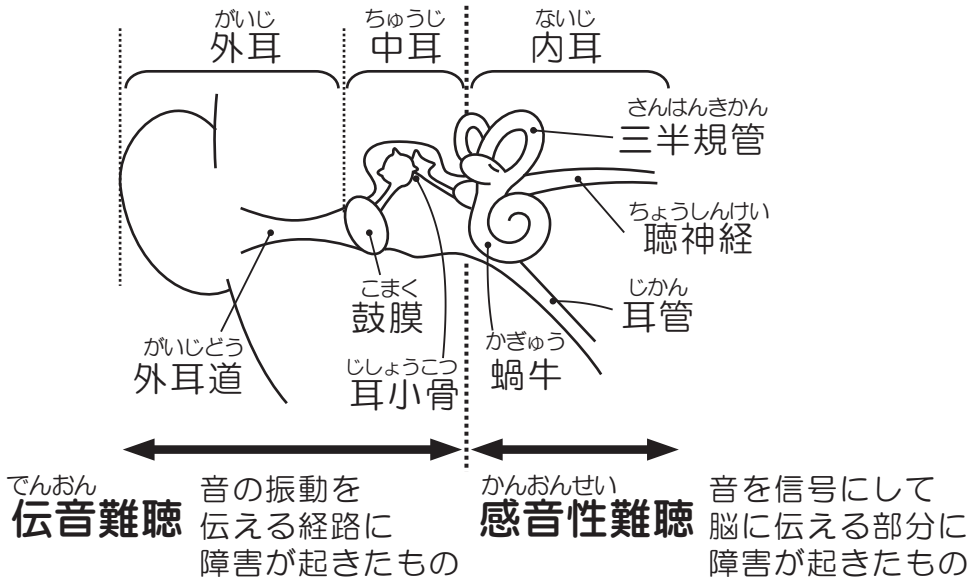
# 耳の病気

## 難聴・耳鳴り

聴力が低下して音が聞こえにくくなる「難聴」は、日常生活にも支障をきたす病気です。耳の内部に障害が起こることが原因で、65歳以上の方の約6割に難聴があるといわれています。また、不快な音が聞こえる「耳鳴り」も、難聴と同様に耳の内部の障害が原因のため、この2つは伴って起こることが多く、原因の障害を治療することで、どちらも改善します。

### ■ 耳の構造と難聴の種類

難聴は、音が伝わる経路のどこに障害が起きたかによって2種類に分けられます。



# 伝音難聴と感音性難聴

## ■伝音難聴

しこ耳垢や異物が外耳道に詰まったり、中耳炎などによる炎症で鼓膜や耳小骨が障害されることで起こります。ほとんどの場合、音や言葉を聞き分ける神経には異常はないので、原因を早期に治療することで改善できます。

## ■感音性難聴

感音性難聴の多くは、蝸牛にある、音の振動を神経に伝える「有毛細胞」が壊れて起こります。

### ●ヘッドホン難聴・騒音性難聴

ヘッドホンで大音量の音楽を聴く、騒音にさらされるなど、大きな音を聞き続けることにより、有毛細胞が壊れます。



### ●加齢性難聴

加齢に伴って有毛細胞が変化し、高い音から徐々に聞こえにくくなります。

### ●突発性難聴

片側の耳に急に難聴が起こります。原因はわかりませんが、内耳や聴神経に障害が起きていると考えられています。

有毛細胞は、一度壊れてしまうと元には戻せないため、進行してしまうほど改善は難しくなります。

『高い音が聞こえにくい』

『音は聞こえても言葉を聞き取れない』

『大きな音が頭に響く・痛みを感じる』

などの症状がある場合は、早めに耳鼻咽喉科を受診し、聴力が低下したら、補聴器を使用するとよいでしょう。



# メニエール病

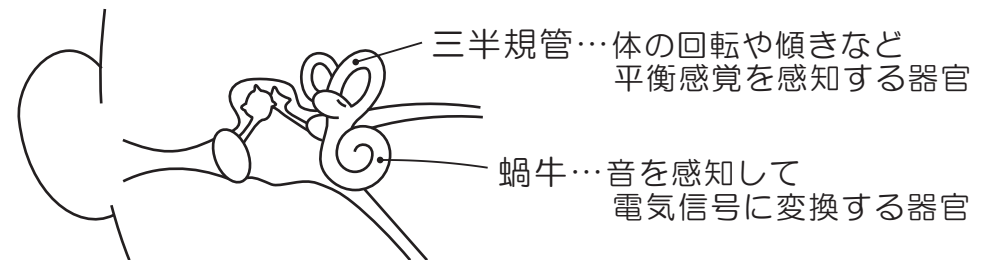
メニエール病とは、自分や周囲がぐるぐると回っているように感じるめまいを、繰り返し起こす病気です。

突然激しいめまいが起き、20分～数時間続きます。めまいと一緒に、難聴や“ブーン”という低い音の耳鳴り、耳がふさがったような感覚が現れることが特徴です。また、多くの場合吐き気や嘔吐などの症状を伴います。



## ■メニエール病の原因

メニエール病は、三半規管や蝸牛の内部にあるリンパ液が増えすぎて、水ぶくれのような状態になることで発症します。詳しい原因は分かっていませんが、ストレスがきっかけで発症したり、悪化することが多いといわれています。



## ■早めの治療&ストレス解消が大切

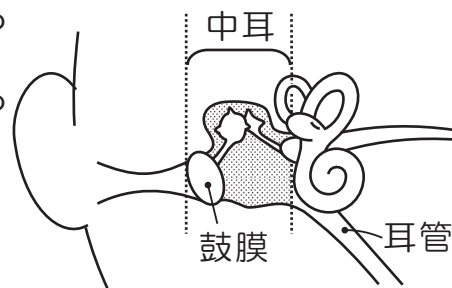
メニエール病は、初期の段階できちんと治療を受ければ、治すことができる病気です。ただし、進行すると難聴が悪化し、聴力が回復できなくなることもあります。

『ぐるぐる回るめまい』に加え、『難聴・耳鳴りなど聴覚の症状』がある場合は、早めに耳鼻咽喉科を受診しましょう。また、ストレスをためないようにすることも大切です。

# 中耳炎

中耳炎とは、中耳に炎症が起こる病気の総称で、耳の痛みや発熱、難聴、耳が詰まったように感じるなどの症状が現れます。

「急性中耳炎」「しんしゅつせい滲出性中耳炎」などの種類があり、原因や症状がそれぞれ異なります。



## ■急性中耳炎

細菌やウイルスが、鼻と耳をつなぐ耳管を通して中耳に入り込み、炎症が起こります。かぜなどの後にかかりやすく、特に小さい子どもは、大人よりも耳管が太く短いため、よく起こります。耳の痛み、発熱、難聴などが現れます。

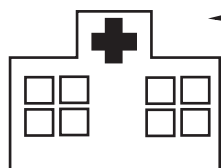


## ■滲出性中耳炎

中耳の中に、滲出液という液体がたまって起こる中耳炎です。急性中耳炎が長引いて、炎症のある部分から滲出液が分泌され、それがたまって起こることが多いです。

本来、滲出液は、耳管を通して排出されますが、耳管の働きが発達していない子どもや、加齢により機能が低下している高齢者は発症しやすくなります。

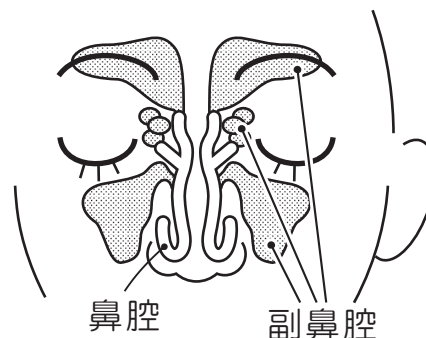
主な症状は難聴で、痛みや発熱はほとんど現れないため、発見が遅れやすい病気です。



中耳炎は、放置しておくとも慢性化したり、合併症や別の病気が潜んでいることもあるため、早めに耳鼻咽喉科を受診し、完治するまで根気よく治療を続けることが大切です。

# 鼻の病気

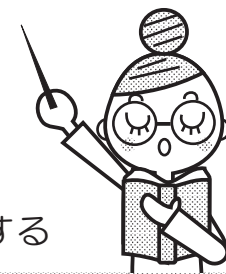
## ふくびくう えん 副鼻腔炎



鼻から呼吸をするときの空気の通り道を「鼻腔」といい、鼻腔の奥は「副鼻腔」という空洞とつながっています。副鼻腔とは、顔の骨の内側の空洞で、副鼻腔の中に炎症が起きたものを「副鼻腔炎」といいます。

## ■副鼻腔炎の主な症状

- ・ネバネバした鼻水が出る
- ・鼻がつまる
- ・頭の前の方が重い、痛い
- ・においが分かりにくい
- ・鼻水がのどにへばりついた感じがする



かぜの場合は、鼻腔にウイルスや細菌が感染して炎症が起き、鼻水・鼻づまりなどの症状になりますが、細菌が副鼻腔まで入り込んで炎症が広がると、頭痛や倦怠感、においを感じにくくなるなどの症状も現れます。日常生活に影響を与えることもあるので、早めの治療でスッキリと治してしまいましょう。



## 急性副鼻腔炎と慢性副鼻腔炎

### ■痛みが特徴の「急性副鼻腔炎」

発症してから1か月未満のものを急性副鼻腔炎といいます。多くは、かぜをひいた後などに起こり、副鼻腔は目や脳の近くにあるため頭や目の奥などに痛みが生じます。炎症がさらに広がると、視力低下や意識障害を起こすこともあるので、鼻の症状に加え、頭や顔に痛みがある場合は、早めに耳鼻咽喉科を受診しましょう。



### ■進行に気づきにくい「慢性副鼻腔炎」

症状が3か月以上続いた状態を、慢性副鼻腔炎といいます。

いわゆる「蓄膿症」<sup>ちくのうしょう</sup>は、この慢性副鼻腔炎にあたります。頭が重い、においが分かりにくいなどの症状がありますが、進行が緩やかなため、症状に気づかないことも多く、長期間放置してしまうと、においを感じる細胞が再生できなくなり嗅覚が戻らなくなることもあるので、早めの治療が大切です。

### ■副鼻腔炎の治療

副鼻腔炎にかかったときは、こまめに鼻をかんでうみを減らすようにしましょう。また、耳鼻咽喉科では、のみ薬による治療や、以下のような局所療法が行われます。

#### 基本的な副鼻腔炎の局所療法

- ①うみや鼻水を取り除く  
たまった鼻水などを吸い出します
- ②点鼻薬で空気の通りを良くする  
炎症をやわらげる薬で、副鼻腔の入り口を広げます
- ③霧状の薬を吸引する  
抗菌薬や腫れを取る薬を副鼻腔に送り込みます



## アレルギー性鼻炎

本来、ウイルスなどの異物を体から排除する役割をもつ「抗体」が、花粉やほこり、ハウスダストなどにも反応し、過剰に働いてしまうのが「アレルギー性鼻炎」です。

「花粉症」も、アレルギー性鼻炎の一種で、花粉などを異物と認識して、外に出すため、くしゃみや鼻水が出たり、中に入れないよう鼻づまりが起こったりします。

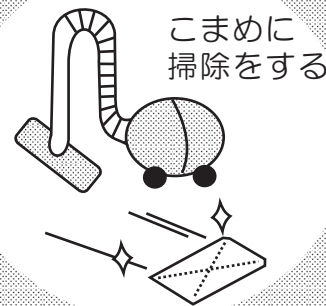


かぜや副鼻腔炎と症状が似ていますが、アレルギー性鼻炎は、くしゃみやかゆみが続き、鼻水が透明でサラサラしていることが特徴です。

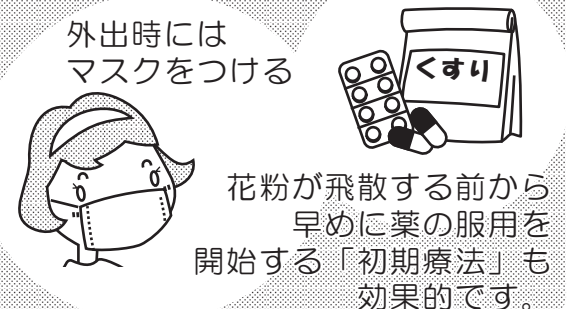
### ■アレルギー性鼻炎の原因と対策

原因となる物質はさまざまですが、特に多いのは、ほこりやダニなどのハウスダストと、スギなどの花粉によるものです。そのほか、カビ、食品、ペットの毛なども原因になります。治療は、症状を抑える薬を使用した薬物療法も行われますが、基本的には『原因となる物質を体内に入れないようにする』ことが大切です。

#### ・原因がハウスダストの場合



#### ・原因が花粉の場合



花粉が飛散する前から早めに薬の服用を開始する「初期療法」も効果的です。